

3学科の先生に聞く、

経済学の“学び”と“研究”

経済学では何を追求するのか

現代経済学科

より効率的な医療制度を探る

高原 豪 講師

医療サービス市場では多岐に渡る規制が導入されており、その形態は国・地域により大きく異なります。そこで、ミクロ経済理論を医療政策分析に応用し、望ましい政策の在り方を追求することで、より効率的な医療制度を明らかにする研究をしています。授業では特に情報経済論の講義を通じて、諸政策や経営戦略について分析・提言する能力の育成に注力しています。



景気や格差に対する経済政策の役割を分析する

奴田原 健悟 教授

日本経済のような、一国規模の経済現象を分析するマクロ経済学を専門にしています。とくに、景気循環や資産価格の変動、格差発生メカニズムの解明や、政府の経済政策の役割について分析しています。学生には、学問の内容理解はもちろん、自分の意見をデータを活用して客観的かつ論理的に、また他の人にわかりやすく伝えられる発表ができるようにも指導しています。



Department of Economics

生活環境経済学科

「働き方」・「働かせ方」を個人、組織、社会レベルで考える

山縣 宏寿 准教授

最近特に最低賃金について取り上げ、最低賃金の上昇が経済・社会に対してどのような影響を与えているのかについて研究しています。大学では「働き方」「働かせ方」に焦点を当て、個人、組織、社会の3つのレベルで学生と共に検討を加えています。その際、理論と現実の往復運動を大切にしながら、現実の問題としてリアリティーにこだわり、講義を行っています。



食・環境・ジェンダーについて思想的に考察する

板井 広明 教授

現在の食料の大量生産システムは、環境的にも倫理的にも限界が来ています。フードロスが指摘される一方で、世界の栄養不足人口は8億人を超えています。ジェンダーによる、健康や所得の不平等も大きな問題となっています。このような世界でどうすれば、自由であることや平等であること、公正であることが可能となるのか、社会思想の観点から考えたいと思っています。



Department of Economics for Life and Social Environment

国際経済学科

国際貿易を経済の観点から分析する

津布久 将史 准教授

国境を越えた経済活動が盛んな現代で安定的な国際関係を築くためには、貿易協定の締結を通じた国際的なルールの設定が不可欠です。研究では、どのような協定を結ぶことが望ましいのか、経済学の理論を応用した分析をしています。講義では、特に国際経済論で国際貿易が発生する仕組みを学び、現実の貿易政策について分析・議論する能力を育むよう努めています。



開発途上国の経済社会の現状と課題を考える

稲田 十一 教授

開発途上国の経済発展は、経済的要因ばかりでなく社会構造や政治的要因にも大きく左右されているのが現実です。「国際協力論」では、こうした開発途上国の経済社会・政治の現状と課題をふまえて、国際社会や途上国の国づくりへの日本の関与の仕方について考えます。また、「海外特別研修」では学生自らが実際に途上国に赴き、人々の生活の実態を肌で感じることを目指します。



Department of International Economics